

地域福祉ソーシャルワーカー・モデル事業について

平成 25 年 11 月
福岡市保健福祉局高齢社会政策課

地域福祉ソーシャルワーカー・モデル事業について

1 事業概要

地域の見守り活動充実のモデル事業として、平成 23～25 年度の 3 か年、1～2 校区を担当する地域福祉ソーシャルワーカー 5 人を配置し、以下の業務を実施。福岡市社会福祉協議会へ委託。

- ①見守り活動を行う地域住民に対する相談・支援
- ②地域の孤立者に対する支援
- ③地域福祉課題を把握分析及び見守り活動推進方策の検討
- ④地域福祉活動推進のためのノウハウ蓄積とマニュアル作成

2 事業目的

- 専任の職員が、地域の活動者に対しきめ細かな支援を行うことで、今後の超高齢社会に対応できるような地域での見守り体制を充実してもらい、孤立死の防止や要支援者の早期発見を行う。
- モデル事業で培ったノウハウを活用し、他の地域へ展開し、全市的に見守り体制の充実を図る。

3 事業詳細

- (1) 平成 23 年度に高齢化率が高く、居住形態に特色のある校区を 6 校区選定し、4 人の地域福祉ソーシャルワーカー（以下「CSW」という。）を配置し、事業を開始。初年度は事業趣旨の周知、活動者との信頼関係の構築、課題把握のために座談会の開催やヒアリングを実施。
- (2) 平成 24 年度 2 校区（1 校区、1 町内）を追加し、新たに 1 人の CSW を配置し、事業を拡大。見守りの仕組みや充実のため、地域関係者への支援や相談の実施。また、地域の見守りの中で把握した孤立者を地域と連携して支援した。

4 予算

平成 25 年度	1,921 万円（うち半額、国の補助金）
平成 24 年度	1,968 万円（うち半額、国の補助金）
平成 23 年度	1,918 万円（全額県の補助金）

5 事業スケジュール

平成 23 年 4 月～	事業開始、校区選定のための調査、モデル校区への打診
平成 23 年 8 月	城浜校区(東)、大原校区(早良)事業開始
平成 23 年 9 月	西陵校区、周船寺校区(西)事業開始
平成 23 年 10 月	東若久校区、東花畑校区(南)事業開始
平成 24 年 8 月	城南校区、金山団地(城南)事業開始
平成 26 年 3 月	モデル事業終了

6 他都市の実施状況

関西を中心にコミュニティソーシャルワーカーを配置し、地域づくりに加え孤立者の支援を行う事業が実施されている。CSW が地域の見守り支援に特化した事業はない。

7 成果と課題

C S Wが地域と密接に関わることで地域と信頼関係が醸成され、見守りのネットワーク等が結成され、充実が進むなど地域の福祉活動が活性化したことや、様々な支援手法が開発された。

今後は、事業で培ったノウハウのマニュアル化や活用できる人材の育成を行い、いかに短期的・効率的に他の地域に展開していくかが課題。

※ 各校区の代表的な成果

校区(町)	高齢者人口	成果
城浜	1,504	公営住宅特有の見守り方法を開始
東若久	1,981	自治会、民生委員、社協、老人クラブの連携による見守り開始
東花畑	2,715	校区の生活支援グループの立ち上げ
大原	1,862	サロンの参加者が増加
西陵	1,897	サロンが3箇所増加
周船寺	2,413	配達企業等と連携した見守り
城南	3,199	地域役員以外の訪問見守り活動開始
(金山団地)	790	団地特有の見守り方法を開始

8 各校区の状況

□ 城浜校区（東区、公営住宅）

- ・ 共益費の徴収、町内清掃により見守り対象者と接触する見守り方法を校区内で実施
- ・ 毎月地域役員参加の座談会を実施。C S Wによる福祉相談会の開催
- ・ 「見守りカルテ（見守り台帳）」「不在にしますカード（入院等を伝えるカード）」等の作成
- ・ ふれあいサロンが2か所開始

□ 東若久校区（南区事業と連携、戸建て）

- ・ 見守り実施の4団体（自治会長、民生委員、社会福祉委員、シニアクラブ）が町内単位で見守りを実施。
- ・ 区の事業「地域福祉ネットワークづくりモデル事業」（校区関係者でワークショップを実施し、実行組織を立ち上げる）と連携して事業を実施。
- ・ 「校区版ふれあいネットワーク活動マニュアル」を作成

□ 東花畑校区（南区事業と連携、戸建て）

- ・ 校区の生活支援グループの立ち上げ
- ・ 区の事業「地域福祉ネットワークづくりモデル事業」と連携して事業を実施。ワークショップを実施し、全町で災害時・平常時を併せた対象者や支援者の把握

□ 大原校区（早良区、UR団地）

- ・ サロン参加者を中心にした見守りを実施
- ・ ふれあいサロンが1か所開始

□ 西陵校区（西区、戸建て）

- ・ 見守り活動が2町開始
- ・ ふれあいサロンが3か所開始
- ・ 生活支援（電球交換等）を行う「お助け隊」が1町で活動開始

- 周船寺校区（西区，郊外）
 - ・新聞，乳酸菌飲料，J A，郵便局と協定を結び，校区内の住民の異変を連絡する仕組み開始
 - ・ふれあいサロンが2か所開始
- 城南校区（城南区，UR団地）
 - ・見守り活動が新たに6町で開始
 - ・マージャンやダーツ，茶話会など定期的な居場所を6か所開始
 - ・災害時要援護者策を普段の見守りにつなげるため，校区全体でワークショップを実施し，校区でマップを作成
- 金山団地（城南区，UR団地）
 - ・訪問の見守りに加え，同一団地やベランダが見える団地へのさりげない見守りを開始
- 城南区（全体）
 - ・新聞販売店と協定を結び，城南区全域で住民の異変の通報を受ける仕組みを開始

9 CSWの支援のステップとその取組

地域支援の流れ	CSWの主な取組
STEP 1 地域活動者のネットワークづくり	モデル事業推進主体の組織化、 既存の活動者連携組織の活用
STEP 2 地域課題の把握・共有	ワークショップ・座談会等の開催 ニーズ調査・ヒアリングの実施
STEP 3 課題解決のための 基盤づくり (情報共有、啓発、人材育成等)	見守りマップ類の作成（見守り対象者の把握・情報集約）
	活動者等への講座・研修の開催・支援
	既存見守り活動の再編・強化（ふれあいネットワーク等）
	見守り人材の発掘・育成
	志縁組織（ボランティア等）の育成・組織化
	活動マニュアル類の作成
STEP 4 地域にあった見守りの実践	生活支援グループの組織化（買物支援等）
	見守りツールの開発 （見守りカルテ、不在通知カード等）
	見守り対象者の居場所づくり支援 （ふれあいサロン拡充、新たな居場所づくり 等）
	外からの見守り活動の構築 （電灯の点灯、カーテン開閉等による安否確認等）
	定期訪問による見守り活動の構築
	NPO法人や民間企業等との連携（配達業者等） 医療機関・介護サービス事業所等との連携・情報共有

地域福祉ソーシャルワーカー・モデル事業の取り組み報告

東区 城浜校区の取り組み・・・・・・・・・・ 6 ページ

南区 東若久・東花畑校区の取り組み・・・・・・・・ 11 ページ

『城浜校区 モデル事業の取り組み』

福岡市社会福祉協議会 地域福祉課地域支援係
城浜校区担当地域福祉ソーシャルワーカー 馬男木幸子

1

校区の概況

福岡市 校区別高齢化率順位 (H24.9)

1. 曲淵(早)	43.6	11. 玄界(西)	30.0
2. 城浜(東)	38.6	12. 香岐南(西)	29.8
3. 志賀島(東)	36.9	13. 東月隈(博)	28.9
4. 能古(西)	36.4	14. 東花畑(南)	28.2
5. 福浜(中)	34.7	15. 弥永(南)	27.6
6. 今津(西)	34.6	16. 早良(早)	27.4
7. 西陵(西)	34.4	17. 長住(南)	26.9
8. 勝馬(東)	33.0	18. 金山(城)	25.9
9. 北崎(西)	31.9	19. 奈多(東)	26.1
10. 脇山(早)	30.4	20. 香椎浜(東)	25.9

2

校区の概況

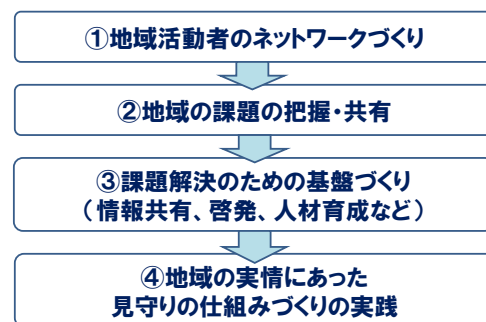
平成24年9月末現在

人口	3,821人	世帯数	2,266世帯
65歳以上人口	1,473人	75歳以上人口	854人
高齢化率	38.6%		
町内会組織数	15町	民生委員配置数	9人
団地棟数	78棟(市:62 県:16)	面積	0.27km ²

- ★ほぼ公営団地のみ（住民の生活環境が同じ）
- ★町内会＝管理組合的役割（加入が居住の条件）

3

C S Wの地域活動支援の流れ



①地域活動者のネットワークづくり

◆つながりマップ実行委員会

※モデル事業の実施主体を組織化

【委員】町内会長、民生委員、校区社協、
老人クラブ、自治協役員、公民館

◆つながりマップ会議(定例会)

【日時】 毎月第1水曜 19時～
【会場】 城浜公民館

5

②地域の課題の把握・共有

◆つながりマップ会議

- ①地域の課題を出し合う(把握・共有)
- ②地域で解決できる課題を整理
- ③校区目標決定・活動案を考える
- ④目標に向かって
できることから始める

6

◆つながいマップ会議



実行委員、各町内の
役員など
毎回30〜40名参加

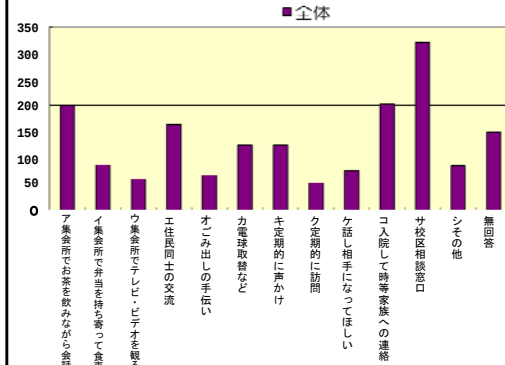
城浜校区の校区目標は...

孤立を防ぐ
～長期間発見されない孤立死をなくす～

7

②地域の課題の把握・共有

平成24年4月 城浜校区アンケート（707人）



8

③課題解決のための基盤づくり (情報共有、啓発、人材育成など)

◆福祉相談会

住民アンケートで希望者が多かった。



CSWによる相談会(月2回・町内集会所)

平成24年6月～平成25年3月(20回開催)

相談内容	来所者数
個別相談	35名
活動相談	18名

個別相談来所
70代:26%
80代~:40%

※福祉サービスの利用相談等の場合は、いきいきセンターにつなぐ

9

③課題解決のための基盤づくり (情報共有、啓発、人材育成など)

◆転入者ガイド

【課題】 周りに知り合いがいない転入者は
孤立しやすく、地域活動に参加しない。



町内役員の住所氏名、校区行事の紹介、
サークル活動の紹介、近隣の医療機関や
商店の情報をまとめ、「転入者ガイド」を作成。

10

④地域の実情にあった 見守りの仕組みづくりの実践

◆不在にしますカード

【課題】連絡なしに入院等で不在になると、
「部屋の中で倒れているのでは？」と心配



本人から連絡をもらうためのカードを作成。
(町内会長・組長・民生委員等の郵便ポストに投函。)

※「安心情報キット」配付で訪問する際に同時配付・協力依頼

11

◆不在にしますカード

しばらく不在にします

氏名: _____ 住所: 城浜団地 _____ 棟 _____ 号 _____

町内会長・組長へ
() 月 () 日から、() 月 () 日まで、
不在にしますので、お知らせします。
不在の間、緊急の連絡がある場合は、下記へご連絡ください。

緊急連絡先: _____ 電話番号: _____

※緊急連絡先には携帯電話や親族、入院先の病院などを記入してください。

12

④地域の实情にあった
見守りの仕組みづくりの実践

◆見守りカルテ

【課題】見守りを希望する住民の情報がない。
急病で倒れたり孤立死発生等の緊急時に、
親族等に連絡を取りたいが連絡先が分からない。

H25年3月末現在
570世帯が提出

町内へ緊急連絡先等を届け出てもら
「見守りカルテ」を作成。兼見守り同意書。

13

◆見守りカルテ ※資料10ページに拡大版掲載

14

④地域の实情にあった
見守りの仕組みづくりの実践

◆見守りカード

【課題】①自宅外で倒れた人がいたときに、
町内に連絡したいが会長等の
連絡先が分からない
②町内での見守りと親族との連携が
取れない。

本人の情報・町内役員一覧を記した名刺大のカードを作成。

15

※資料10ページに拡大版掲載

16

④地域の实情にあった
見守りの仕組みづくりの実践

◆つながりマップの作成

・「見守りカルテ」を提出した人
→見守りに同意し緊急連絡先を届け出

棟ごとにマス目状のマップを作成
見守り対象者を可視化

見守り対象者＝カルテ提出者(赤枠)＋気になる人(青枠)
※福祉サービス利用の有無、親族・知人との
交流状況をチェック

17

◆つながりマップの作成



18

④地域の実情にあった
見守りの仕組みづくりの実践

◆見守りの仕組み構築(マップを活用)

- ①町内役員による見守り
 - ※毎月の町内清掃・共益費徴収時に対象者に声かけ。清掃不参加者には個別確認。
 - ※日常生活の中でも外からの見守り
- ②町内定例会等での情報交換
- ③役員交代時はマップで引き継ぎ

19

④地域の実情にあった
見守りの仕組みづくりの実践

◆校区版見守りマニュアル

- ・一般住民に見守りを呼びかけ
 - 見守りのポイント
 - 孤立死しないための注意点
- ・孤立死が疑われる場合の対応方法
 - 連絡すべき関係機関一覧



20

④地域の実情にあった
見守りの仕組みづくりの実践

◆関係機関と情報共有(拡大会議)

年に1回、地域の取り組みの周知と協力連携を検討する会議

- ・地域の医療機関
- ・新聞・乳製品配達関係業者
- ・スーパーマーケット、コンビニ
- ・住宅供給公社、区役所
- ・いきいきセンター
- ・知的・精神障がい相談支援センター など

第1回:14機関27名参加
第2回:17機関29名参加

21

④地域の実情にあった
見守りの仕組みづくりの実践

◆社会資源と連携した見守り

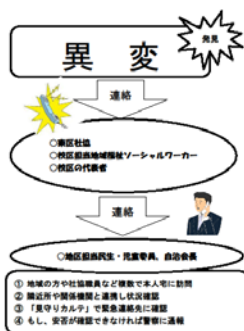
「いつも病院に来る人が急に来なくなった」
「部屋の中で倒れているかもしれない」
「連絡がとれなくて心配」



異変を発見した際に、
校区に連絡をもらう仕組みづくり

22

◆社会資源と連携した見守り



協力に同意した機関
とは簡単な文書を取り
交わしています

H25.10までの取り交わし状況	
医療機関	5
福祉介護事業所	1
薬局	1
スーパーマーケット	1
飲料配達業	1
新聞配達業	3
葬祭業	1
住宅供給公社	1
計	14

23

◆その他(町内単位)

- ・サロン活動・町内交流事業の立ち上げ
- ・ゴミ捨て支援活動立ち上げ
- ・生活支援ボランティアグループ立ち上げ
(担い手:シニア世代男性)

24

◆見守りカルテ

城浜校区自治連合会より 情報提供のおねがい

○城浜校区は近年少子高齢化が進み、高齢化率は東区で最も高い約36%で、3人に1人は高齢者という状況です。またひとり暮らし世帯も多いため、高齢者に限らず「孤立死」という悲しい事態も起こっています。

○地震・水害などの災害のときや、自分や家族ではどうしようもない困ったことが起こったときには公的な支援とともに「地域での助け合い支えあい」が頼りですが、日頃から住民同士が顔の見える関係でなければ、地域で助け合うことは難しくなります。

○城浜校区では安心して住み続けられる地域にするため、どこに誰が住んでいるか、緊急時の連絡先、かかりつけの病院…などの情報を町内会で把握して名簿を作り、日頃から地域で見守り、助け合えるような「つながりのある校区」にしたいと考えています。

○趣旨を御理解のうえ、ご自身の情報提供にご協力いただきますよう、お願いいたします。

○みなさまの個人情報は、町内会活動や地域福祉活動に活用させていただきますことがあります。地域福祉活動に活用する際は、校区自治協議会・校区社会福祉協議会・民生委員児童委員協議会で共有します。

○みなさまの個人情報は城浜校区自治連合会・各町内会長が、細心の注意を払って保管します。

私は、見守り活動をはじめとする地域福祉活動に活用するため、
個人情報を提供することに同意します。

____ 棟 ____ 号 署名: _____

城浜校区 見守りカルテ

平成 ____ 年 ____ 月 ____ 日調査(調査担当者: _____)

氏 名		住 所	東区 城浜団地 ____ 棟 ____ 号
生年月日 (年齢)	☐ 明治 ☐ 大正 ☐ 昭和 (年 月 日) (満 歳)	電 話 番 号	(自宅) (携帯)
世帯状況 ☐ ひとり暮らし ☐ 高齢者夫婦世帯 ☐ 家族と同居			
連絡 氏 名 (年齢)	日中の連絡先(勤務先・携帯など)		
別居 氏 名 (年齢)			
緊急 連絡 先	連絡 氏 名 (別居家族など)	連絡先(住所・電話番号など)	
本人 など	氏 名	連絡 先(住所・電話番号など)	
か か り つ け 医 院	病 院 名	電 話 番 号	
・福祉サービスを ☐ 利用している ☐ 利用していない			
ケアマネ	事業所名:	氏 名:	
利用内容	サービス種別	・事業所名 ・連絡先 ・担当者	

※あなたに関する情報は、町内会活動・地域福祉活動に活用させていただきます

◆見守りカード

《本人用》

表

城浜校区 ____ 区町内見守りカード

本人用

	氏名	住 所	電話番号
町内会長		棟 号	
民生委員 児童委員		棟 号	
緊急連絡先 ()			

《家族用》

表

城浜校区 ____ 区町内見守りカード

ご家族用

	氏名	住 所	電話番号
町内会長		棟 号	
民生委員 児童委員		棟 号	
		棟 号	

裏

城浜校区 ____ 区町内見守りカード

本人用

町内では高齢者等を町内で見守り、支え合う活動に取り組んでいます。お困りのことがあれば、ご相談ください。
また、入院や外泊で不在にされる場合には、町内では「中で倒れているのではないか」など心配しますので、必ず近隣の友や町内会長・組長等にご連絡をお願いいたします。

お名前		生年月日	
住 所	福岡市東区城浜団地	棟 号	
電話番号			

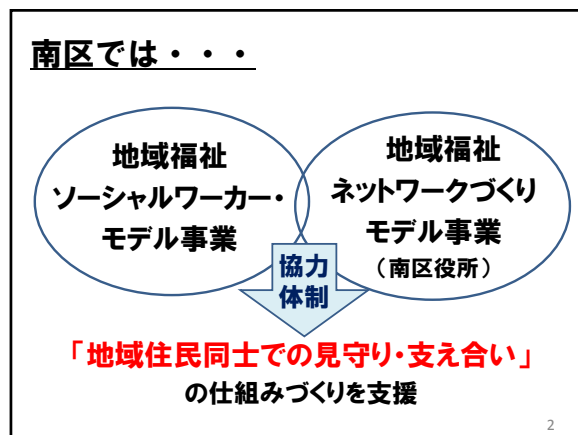
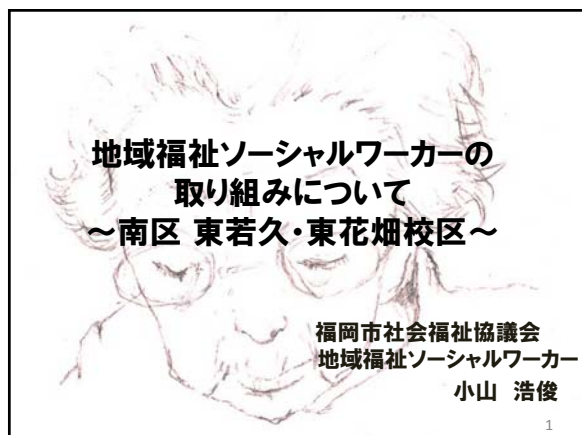
裏

城浜校区 ____ 区町内見守りカード

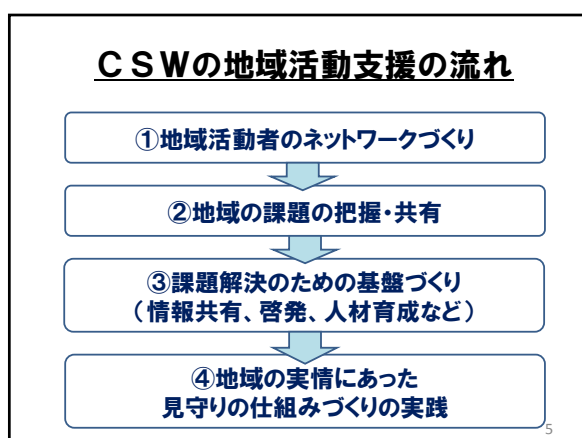
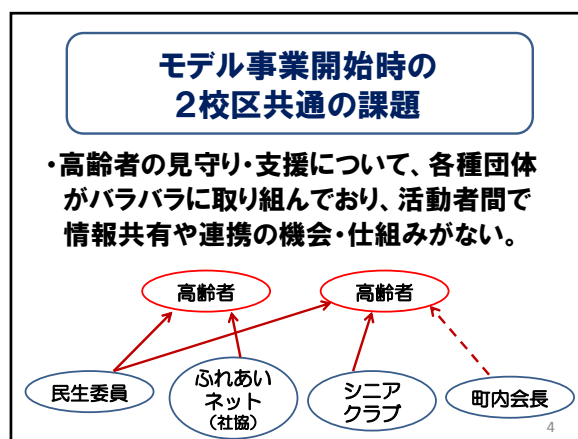
ご家族用

町内では高齢者等を町内で見守り、支え合う活動に取り組んでいます。
「最近連絡が取れない」「電話したが様子がおかしい」など心配だが離れて暮らすご家族が様子を見に行けないとき等に、町内に相談していただくために、このカードを作りました。
また、ご本人が入院や外泊で不在にされる場合には、町内では「中で倒れているのではないか」など心配しますので、必ずご連絡をお願いいたします。

町内会一同



モデル校区概要		※モデル介入時 (H23.9末データ)
東若久校区		東花畑校区
人 口: 7,657人		人 口: 9,188人
世帯数: 3,349世帯		世帯数: 4,078世帯
高齢化率: 24.3%		高齢化率: 27.4%
75歳以上: 13.2%		75歳以上: 14.5%
※全14町で構成		※全14町で構成
・2校区ともに「戸建て中心」の校区		



- ①地域活動者のネットワークづくり
- 【東若久】
- ・ふれあいネットワーク活動運営協議会(H23.4立ち上げ)を中心に協議。
- 【東花畑】
- ・「地域福祉“5愛”推進会」を、モデル事業の実施主体および協議の場として立ち上げ。
- ➡・団体間の情報共有、話し合いの場ができた。
- ・各団体が参加することで、意識や方向性の共有にもつながった。

②地域の課題の把握・共有

【課題の把握】

- ・各種データの分析。
- ・各団体や各町の会合・事業等への参加。
- ・活動者へ個別に聞き取りを実施。
- ・実際に地域を歩いてみる。

【課題の共有】

- ・各団体や各町の会合等でCSWより発信。
- ・現状と課題を共有する**ワークショップ**を開催。
(2校区ともモデル1年目【H23年度冬】に開催)

7



ワークショップ⇒校区での共通認識



8

③課題解決のための基盤づくり (情報共有、啓発、人材育成など)

【人材育成・啓発】

- ・見守りに関連する各種研修会の実施
- ・町単位の集まりの場での研修、啓発
例：町内ネットワーク会議、町内会総会、
町内組長会議、町内交流行事 など

⇒ これまで活動を知らなかった住民や、関心の
なかった住民、若い世代へも、高齢者等を
見守る意識が広がり、理解が深まった。

9

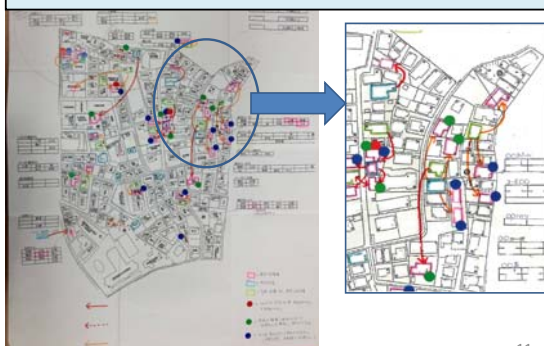
③課題解決のための基盤づくり (情報共有、啓発、人材育成など)

【基盤づくり】

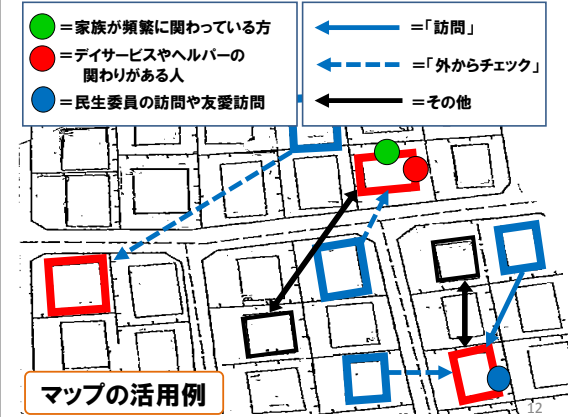
- ・校区版の「見守り活動マニュアル」の作成
- ⇒ ・活動者が見守りについて共有できるツール。
・活動者が交代しても、見守り活動の進め方
を確認でき、活動の停滞・後退が防げる。
- ・各町単位で「見守りマップ」の作成

10

見守りマップ＝町内の見守り状況を地図上に表し可視化



11



マップの活用例

12

④地域の実情にあった 見守りの仕組みづくりの実践

【主な成果】

- ・各町で、町内会長や町内会役員、民生委員、社会福祉協議会、シニアクラブなどのメンバーで**情報共有し、役割分担**しながら見守りを実施するようになった。(組長や近隣住民などの協力者も増えた。)
- ・町単位の交流事業など、**見守りにつながる取り組み**や町独自の活動への広がり。

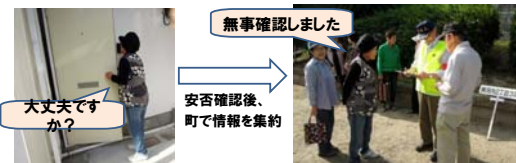
13

④地域の実情にあった 見守りの仕組みづくりの実践

【主な成果】

- ・「**平常時の見守り**」と併せ「**災害時の避難支援**」にも機能する体制づくり。

※要援護者へ実際に安否確認の訓練も実施。



14

④地域の実情にあった 見守りの仕組みづくりの実践

【その他の成果や事例】

- ・**生活支援**(電球交換、買い物支援、庭木剪定・・・など軽作業)に取り組む**グループの立ち上げ** ※東花畑校区



生活支援グループ「たすけ愛隊」



15

④地域の実情にあった 見守りの仕組みづくりの実践

【その他の成果や事例】

- ・地域活動者による、個別ケースの支援事例

- 命を救った事例
- 生活支援と見守りで、在宅の生活を支えた事例
- 病院受診を促し、脳梗塞を早期発見した事例

地道な活動→高齢者等を気に掛ける意識の広がり

16

区役所とCSWの役割分担

【区役所と協働での動き】

- ・校区全体の方針に関する会議、説明、意見交換
- ・ワークショップや研修会(校区全体)の実施 など

【CSW単独での動き】

- ・町単位の支援(具体的な活動の支援)
- ・団体や町単位の研修、啓発
- ・その他(相談への対応や助言、個別ケース支援、課題把握、情報発信・共有・・・) など

17

CSWの所感①

校区専任として地域へ関わり、地域活動者と顔が見える関係ができることで、CSWへ相談が挙がってくるようになる(アウトリーチ機能)。

【参考】 CSWへの相談件数の推移

		H23年度 9月～3月	H24年度 4月～9月	H24年度 10月～3月
東若久	地域活動	9件	21件	41件
	個別ケース	7件	13件	14件
東花畑	地域活動	4件	7件	22件
	個別ケース	4件	5件	24件

18

CSWの所感②

様々な「見守り」の組み合わせを、どのように表すか。
（「数値化」、「見える化」することの難しさ）

